全盲の家族、コロナ感染も…PCR 検査説明書すら読めず　「配慮を」

2022/6/19 毎日新聞

記者会見で訴える北海道視覚障害者福祉連合会の島信一朗会長＝札幌市の道庁で2022年6月9日午前10時32分、山田豊撮影

家族が新型コロナウイルスに感染したが、車を運転して PCR 検査を受けにいけず、送付された検査キットの説明書も読めなかった――。全員が全盲の 3 人家族の訴えを北海道視覚障害者福祉連合会が明らかにした。連合会は 5 月下旬、道に対して「合理的な配慮」を求める要望書を提出。島信一朗会長（52）は 6 月の記者会見で、「(障がいを抱える人たちへの) 理解や想像力、思いやりが広がることを期待する」と述べた。【山田豊】

点字シールが貼られた食品を持つ北海道視覚障害者福祉連合会の島信一朗会長＝札幌市の道庁で2022年6月9日午前10時36分、山田豊撮影

連合会によると、4 月下旬、佐呂間町で暮らす 70～80 代の夫婦が新型コロナに感染した。40 代の子どもが濃厚接触者と認定された。家族は全員が全盲で、ヘルパーのサポートを受けて生活する。しかし、感染者、濃厚接触者ということでヘルパーとの対面での接触が制限されてしまったという。

子どもは濃厚接触者となったため、保健所に自宅から 30 キロ以上離れた遠軽町の指定病院で PCR 検査を受けるように求められたが、家族の全員が車を運転できない。濃厚接触者のため、日常的に使うタクシーや乗り合いバスも使えなかった。状況を説明すると、保健所は「検査キットを送る」と提案。だが、説明書を読むことができなかった。食料品などが入った「自宅療養セット」も送られてきたが、触れただけでは何か分からなかった。

点字シールが貼られた食品を持つ北海道視覚障害者福祉連合会の島信一朗会長＝札幌市の道庁で 2022 年 6 月 9 日午前 10 時 36 分、山田豊撮影

一家は健常者、障がい者への「一律」の対応に苦しめられた。連合会に相談したところ、道は 5 月下旬以降、対象者に食品などに点字ラベルシールを貼り、音声を読み上げるコードも同封するなどの配慮をする体制を整えた。一家は「改善されてよかったが、切羽詰まってからでなく、事前に対応するような事例が増えてほしい」と訴えている。

一家は「住み慣れた家がよい」として自宅療養を選択した。島会長は道に対し、「自宅療養が適切でないケースも想定される。医療機関に身を置くことが安全な場合もある。個々のケースで柔軟な対応ができる体制をつくってほしい」と伝えた。